



## キンギョが大きくなったら、色が赤から白に変わったのはなぜ

### キンギョはフナから生まれてきた

キンギョの先祖はフナです。突然変異(突然、親とは似ていない性質や、姿、形が子に現れ、それが子孫に伝わっていくこと)で現れた赤い色のフナを、人間が、より赤い色のもの、赤と白が混じったもの、おびれがりっぱなもの、より変わった形をしたもの、と改良を重ねてきて、今のキンギョが生まれました。ですから、1ぴきのキンギョの親、その親の親とたどっていくと、いろいろな色や形の先祖がいます。

### 先祖の性質が成長のとちゅうで現れる

親が、真っ赤とか、白と赤の混じった色、全身真っ黒、などいろいろな色や形をしていても、キンギョの赤ちゃんは、どれもみな、じみな黒っぽい色をしています。フナの赤ちゃんも、色や、体の形はそっくりです。これは、先祖が、フナだからなのです。

卵からかえって2～3か月ぐらいたつと、キンギョの子どもの体の色は、変化し始めます。おなかのあたりから黄色くなってきて、黒い部分が少なくなります。そして、少しずつ、親のキンギョに似た、色や形になっていきます。

大きくなるにつれて、体の赤い部分が大きくなったり、白い部分が多くなり、赤いキンギョが白くなったりすることもあります。

キンギョの色は、皮ふの細胞の中の、色素によって決まりますので、キンギョの健康によっても変わります。(監修・安部 義孝)

